

調布市制施行



調布市制施行60周年記念事業

主催：調布市福祉作業所等連絡会

共催：調布市・調布市社会福祉協議会・NPO法人調布心身障害児・者親の会

ともに暮らそう

～はじめの一步はここから～

障害理解のための映画上映会&シンポジウム

2016年

2月28日 13:00-16:00

調布市グリーンホール 小ホール（入場無料・当日先着250名）開場12:30



第一部

13:00~14:50

「ぼくはうみがみたくなりました」

出演：大塚ちひろ、伊藤祐貴、秋野太作、大森暁美、石井めぐみ、小林裕吉、松嶋初音、ピエール瀧（友情出演）
自閉症の青年が教えてくれた大切なこと...
心が少し優しくなれる感動のストーリー



第一部

15:00~16:00

シンポジウム

みんな、地域で暮らしたい！

シンポジスト：平雅夫氏（社会福祉法人トポスの会理事・
星槎大学非常勤講師・日本自閉症スペクトラム学会理事）
障害者家族、福祉作業所職員、市内商店主



問い合わせ：調布市福祉作業所等連絡会 fuku-renraku@tbz.t-com.ne.jp 042-481-3201

後援：調布市教育委員会、調布市公立学校PTA連合会、調布市商工会、調布市社会福祉事業団、
調布市民生児童委員協議会、調布市社会福祉士会、調布市自治会連合協議会、
国際ソロプチミスト東京ー調布ローレル、調布市障害者（児）団体連合会

「ぼくはうみがみたくなりました」映画上映会&シンポジウムに寄せて 調布市長 長友貴樹



この度、調布市制施行60周年記念事業として、関係団体の皆様と共に映画上映会及びシンポジウムを開催できますことを大変喜ばしく思っております。

平成18年4月に障害者自立支援法が施行されてからの9年間、障害者福祉分野を取り巻く環境は著しく変化してきました。満10年を迎える平成28年4月には障害者差別解消法の施行も予定されており、まだまだ取り組むべき課題は山積しております。

今後も、地域福祉の向上やノーマライゼーションの実現に向け、充実した施策の展開を図ってまいりますので、引き続き関係団体や市民の皆様のご理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本映画上映会及びシンポジウムが、地域における「障害理解」や「障害者支援」を促進させるものとなることを心から期待するとともに、主催いただきました調布市福祉作業所等連絡会並びにNPO法人調布心身障害児・者親の会、調布市社会福祉協議会の御発展、そしてシンポジストとして御協力いただきます皆様の益々の御活躍を心からお祈り申し上げます。



「ドライブ行かない？海とか…」
初めて出逢ったとき、私は彼の障害のこと
ぜんぜん知りませんでした。

自分を見失いかけていた看護学生明日美は、ある日のこと、愛車の黄色いステップワゴンを見つめている青年、淳一に声をかける。高校時代に好意を寄せていた同級生に面影が似ていたからだ。明日美の誘いを断るでもなく、助手席に乗り込んできた淳一とともに、二人は海へと向かう。

しかし、彼の言動は少し変だ。いや、少しどころじゃない、どう考えてもおかしい…

偶然から始まったドライブは、旅先で出会う人々を巻き込みながら、たくさんの驚きとささやかな幸福を明日美にもたらすことに…。



<作品解説>自閉症の青年と少し人生行き詰まり気味の看護学生が、偶然から海へ向かう旅に出てしまい、そこで様々な人々とめぐり合うハートウォーミングな人間ドラマ。「自閉症」という名前だけが一人歩きし始めている昨今、実際の症状や接し方等ほとんど知られていない障害に焦点を当て、ひとりの自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を時にユーモラスに、時に厳しくそして温かく描き出した秀作。

企画・原作・脚本：山下久仁明 監督：福田是久 音楽：椎名邦仁

主催「調布市福祉作業所等連絡会」あいさつ

調布市福祉作業所等連絡会は、市内にある福祉作業所、放課後デイサービス等が連携し、共同受注や販路の拡大等相互に共同できる事業にとり組みながら、広く心身障害児・者の福祉を推進することを目的とする団体です。

2015年（平成27年）12月現在、31法人、47事業所が加盟しています。

「ぼくはうみがみたくなりました」は、「自閉症の理解と啓発を進める上で、日本で一番の映画」と定評のある映画です。

発達障害者支援の第一人者である平雅夫先生をお招きしたシンポジウムでは、障害者のご家族、地域の方々と共に、自閉症に限らず障害のある方を地域で当たり前に受け入れ、障害のある方もない方も共に安心して暮らし続けられる街づくりについて、一緒に考えたいと思います。



機関紙「わくわ〜く」